ナッジ理論研修

対象者：一般職員～監督者

1. 研修の目的

ナッジ（nudge：そっと後押しする）とは、行動科学の活用により、「人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法」のことです。研修では、ナッジ理論の基本的な考え方や他自治体における活用事例などの確認を通じて、読み手を動かす資料の作成及び自治体における活用事例を考える機会を創出することを目的としています。

2. 研修の特徴

【基礎理解】
　ナッジ理論について基本的な考え方と活用を知る。
【情報共有】
　参加者間で事例を共有しながら、自治体における活用事例・アイデアを共有する。
【目標設定】
　日常業務で具体的に活かせる、導入できる目標とする。

3. 研修内容

	内　容	詳細、得たい成果
9:00	**1. オリエンテーション** 1）　ナッジ理論とその本質 2）　ナッジ理論の必要性 3）　ナッジを用いる際の留意点	● 行動科学の知見を活用することは伝統的な政策手法を補完する新たな政策手法として期待が高まっています。「そもそも」から「なるほど」までを確認します。
	2. 事例から学ぶナッジ 1）複数の実例からナッジを考える 2）EAST から事例を読み解く 3）「どうしたら良いのか？」ナッジで考える	● ナッジに基づいた取り組みを整理する際に欠かせないフレームがEAST（Easy、Attractive、Social、Timely）です。 ● 研修では実例を EAST の視点から読み解き参加者間で共有します。
	3. ナッジを取入れる 1）　ケースを基に対してナッジを取入れてみる -資料編 -環境編	● 学んだことを基に、資料(読んで貰える資料)及び環境(来庁者が迷わない他)などのケースでナッジの活用に取り組み、共有することで学習効果を向上します。
16:30	**4. 本日の振り返り/明日への取り組み** 1）　本日の研修の振り返り 2）　明日からの仕事で、取り組むことの共有	● 研修を通じて学んだこと、身に着けたことを振り返ると同時に、その中から明日の業務に転用できることを確認します。